



北京中医薬大学

高思華学長のご挨拶

尊敬する各会の代表の先生方、友人の皆様

まず、北京中医薬大学を代表しまして、各会の代表の先生方、専門家の先生方、また、日本からいらっしやった薬膳の専門家の先生方と友人の皆様にご心から歓迎の意を表します。



『黄帝内経』から最古の薬膳食療専門書『食療本草』まで、中医薬文化は薬食同源ということを強調しています。数多くの著名な中医の古典は飲食養生と飲食治療について非常に系統立てて論述されており、疾病の治療において食物の重要性―食物の相互配合（食べ合わせ）を強調しています。

このような貴重な著作物は理論―中医理論体系の重要な組成部分です。

北京中医薬大学は世界的に知名度が高い中医薬高等教育学府であり、中医薬臨床を重視し、教育と研究を行っています。

また、疾病の予防と治療における飲食と薬膳の重要な働きを大変重視しており、すでに20年前から養生専科を開設し、当時の養生専科のリーダーである翁維健教授は現在でも我校で大変すぐれた講義を行なっています。人類の健康に対する不断なる追及、科学的に分析された飲食の情報や養生に関する更なる専門的な知識を得たいと渴望している人々の現状に直面し、これらは我々が更に深く研究し、中医食療が浸透すれば、広汎にわたり中医食療が発展する場や機会が広がっていくことを示しています。中日両国は一衣帯水の関係にあり、学術と文化交流の起源は古くから続いています。中日双方の薬膳に携わる者たちのたゆまない努力を通じて、必ずや中日両国の薬膳事業が発展し、また、このことが両国民の健康水準を高め、大変重要な現実的意義をもつことと信じております。今回の薬膳大会の成功を心から願っております。

皆様のご清聴、ありがとうございました。

中国薬膳研究会

周文泉会長のご挨拶



尊敬する各会の代表の先生方、日本の友人の皆様、薬膳の同志の皆様

この価値ある2010年薬膳学術検討会の開催に際しまして、中国薬膳研究会を代表し、専門家の先生方、また、はるばる日本からいらっしやった友人の皆様にご心から歓迎の意を表します。

加えて国際薬膳師（士）に合格され、授与式に参加された日本の同胞の皆様にご心よりお祝いを申し上げます。同時にまた、この検討会の開催を快諾してくださった北京中医薬大学の方々にも衷心より感謝いたします。

中日薬膳交流は2年前に始まり、中国薬膳研究会と日本北京中医薬大学分校、日本本草薬膳学院と日本誠心学園の共同努力により、厳格且つ規範的な教育制度と試験制度により400名近くの国際薬膳師（士）を養成して参りました。これは日本において国際薬膳師会を設立し、さらに薬膳の専門家として人材を育て、薬膳事業の発展を推し進めたことによります。ここで、中国薬膳研究会を代表し、日本本草薬膳学院の中日薬膳事業の発展と交流にご貢献してくださった劉海洋先生、鷺見美智子先生に厚く御礼申し上げます。

今回の検討会は中国で最高の中医薬学府である北京中医薬大学で、素晴らしい専門家の講演を用意し開催された、第1級の高水準な学術検討会です。薬膳の学術レベルの不断なる向上に伴い、薬膳の人材は絶えることなく増え続け、中日双方の薬膳に携わる者たちの勤勉なる努力と、また国際薬膳師（士）の皆様のご絶え間ない努力を通じて、中医薬膳事業、中医薬膳理論、学術交流と協力は各方面でたゆまず進展して行くことと確信しております。

また、私たちの協力と努力により、両国の薬膳事業の発展と人々の健康水準の向上に大きな貢献ができることを願っております。改めてもう一度、仲間となった国際薬膳師（士）の皆様にお祝いを申し上げ、楽しく忘れがたい北京の旅になりますようお祈り申し上げます。今回の薬膳大会の成功を心から願っております。ありがとうございました。

～国際薬膳会議のお知らせ～



- I. 中国上海市 第一回国際薬膳養生産業高峰会議 2010年8月10日（火）～15日（日）
 - II. 韓国文慶市 第六回国際美食養生コンテスト 2010年10月13日（水）～17日（日）【観光を含め4泊5日】
 - III. 中国北京市 第六回中国薬膳養生コンテスト 2010年11月12日（金）～15日（火）【観光を含め4泊5日】
- ※旅行詳細につきましては、後日ご案内いたします。ご友人をお誘いあわせの上、どうぞご参加ください。